

平成 23 年度

# 病害虫発生予報第 7 号

平成 24 年 3 月 22 日

## 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

## 目次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	9
5. 今月のトピックス（イネばか苗病について）	10
6. 気象のデータ	11
7. おしらせ	13

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 作物

イネ（注 1）では、イネミズヅウムシの発生量はやや少と予想されます。

コムギ（注 2）では、赤かび病の発生量は平年並と予想されます。圃場ごとに出穂および開花状況を把握し、開花始めから開花盛期に予防散布してください。（注 1：4 月中旬までに移植する圃場を対象。注 2：11 月上旬までに播種した圃場を対象。）

### 2) 果樹

カンキツでは、かいはよう病（中晩柑）の発生量はやや多と予想されます。

夏秋梢を中心に病斑の有無をよく観察し、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、圃場外で処分してください。薬剤防除は天候に注意して適切に行ってください。そうか病、かいはよう病（温州みかん）、ミカンハダニの発生量は平年並と予想されます。なお、ミカンハダニの発生が多い圃場では今後の増加に注意してください。

ナシでは、黒星病、赤星病の発生量は平年並と予想されます。

### 3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は平年並、チャノホソガの飛来時期は遅と考えられます。

### 4) 野菜

イチゴでは、灰色かび病の発生量は多と予想されますので、ハウス内の適切な温湿度管理と予防散布に努めてください。ハダニ類の発生量はやや多と予想されますので、早期発見に努め、寄生密度が低いうちに防除を行ってください。うどんこ病の発生量は平年並と予想されます。

キャベツでは、菌核病の発生はやや多と予想されますので、発病株の除去と予防散布を行なってください。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量			要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
							3月		4月		
							平年比	平年比	程度	平年比	
イネ	イネミズゾウムシ	—	やや少	小	普通					成虫誘殺数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 近年、実害は少ないので、移植後の発生状況に応じて防除してください。</li> <li>2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。</li> </ul>
コムギ	赤かび病	—	平年並	小	普通		出穂期	開花期		感染 発病	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 本年は冬期の低温の影響で生育が遅れており、出穂時期もやや遅い見込みです。</li> <li>2) 圃場ごとに出穂および開花状況を把握し、開花始めから開花盛期に予防散布してください。</li> <li>3) 防除所ホームページの「コムギ赤かび病・防除情報」において、出穂期および防除適期の予測（随時更新）を公開しています。</li> </ul>
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	普通	葉枝の発病		発芽			<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 昨年に果実での発病がみられた圃場では、発芽期防除を実施してください。</li> <li>2) 春葉が感染する期間は発芽直後から伸長停止期までです。</li> <li>3) 越冬病斑の見られる枝葉は剪除して、圃場より持ち出して処分してください。</li> </ul>
	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 低					発病密度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 風当たりの強い中晩柑園では、越冬病斑の多い圃場があります。発芽前防除を実施してください。</li> <li>2) 夏秋梢等の発病枝葉は早く剪除し、圃場より持ち出してください。</li> <li>3) ボルドー液とマシン油乳剤の近接散布に注意してください。</li> </ul>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	ミカンハダニ	-	平年並	中	普通					1) 成虫が1葉当り1頭前後になったら防除してください。 2) マシン油乳剤を散布していない圃場では、今後の増加に注意してください。
	黒星病	-	平年並	小	普通					1) りん片や新梢基部に発病が確認されたら、すぐに防除を実施してください。なお、発病したりん片は、基部から切除して圃場外で処分してください。 2) 例年発生が多い圃場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。
	赤星病	-	平年並	小	普通					1) 赤星病の防除時期は、黒星病の防除適期と重なります。 2) 特に開花期前後の防除が重要なので、各薬剤の特性を理解して両方に登録のある薬剤を使用してください。
チャ	カンザワハダニ	-	平年並	中	普通					1) 2月下旬～3月上旬に産卵を始めます。 2) 4月上旬頃までは個体数は少ないものの雌成虫が圃場内に広く分散して裾葉の裏などに寄生しています。葉裏には薬剤が付着しにくいいため丁寧に散布しましょう。 3) 年間10世代と発生回数が多く、薬剤抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤は連用を避けてください。また、天敵への影響を考慮して薬剤を選択してください。
	チャノホソガ	遅	-	-	-					1) 新芽の葉裏に産卵や幼虫を認めたら防除してください。 2) 成虫飛来が多くても新芽が無かったり、巻葉前に一番茶摘採を迎える場合は、被害が少ないので防除を省略できます。新芽の状況を考慮して防除適否を判断してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
			発生時期	発生量		要防除圃場率	3月		4月		
							発生時期	発生量	発生時期		発生量
イチゴ	灰色かび病	-	多	大	高					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病害虫発生予察注意報第2号(3月14日発表)。</li> <li>2) 20 前後の温度と多湿条件で発生しやすいため、ハウス内の温度・湿度管理に注意してください。</li> <li>3) 発病した茎葉や果実、枯死葉などは伝染源となるため、こまめに取り除いて圃場外へ持ち出し、処分してください。</li> <li>4) 発病前の予防防除が基本です。また、曇雨天時は液剤の使用を控え、くん煙剤を利用するとハウス内の湿度上昇を防げます。</li> <li>5) 薬剤散布の際は、株全体に薬液がかかるよう丁寧に散布してください。</li> <li>6) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> </ol>	
	うどんこ病	-	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 軟弱徒長すると発生が多くなります。適切な温湿度管理、灌水管理を行ってください。</li> <li>2) 発病した葉や果実は伝染源となりますので、見つけ次第、速やかに除去してください。</li> <li>3) 発病を認めたときは集中的に薬剤散布を行います。発病果実や不要な下葉を除去した後、葉裏や株の内部にも薬液がかかるよう、丁寧に散布してください。</li> <li>4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> </ol>	
	ハダニ類	-	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病害虫防除技術情報第17号(3月14日発表)。</li> <li>2) 発生が多くなると防除が困難になります。早期発見に努め、寄生密度が低いうちに薬剤防除を行ってください。</li> <li>3) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。</li> <li>4) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> <li>5) 薬剤散布の際は、収穫前日数とともに、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して、薬剤の選択を行ってください。</li> </ol>	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
キャベツ	菌核病	-	やや多	少	普通		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発病株は周辺株への伝染源となります。また、菌核を形成すると土中で長年生き残ります。発病株を見つけたら、菌核をつくらぬうちに抜き取って圃場外へ持ち出し、処分してください。</li> <li>2) 葉の傷口や生育の衰えた下葉から病原菌が感染し、結球期頃から発生が目立ち始めます。結球始期の予防散布を基本としてください。</li> <li>3) 薬剤散布は、初発部位である株元を中心に丁寧に行なってください。</li> </ol>			

### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、気温は高くない予想 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(昨年8月)では、発生圃場率12.8%(平年11.8%)とやや多、払い落とし虫数0.3頭(平年1.2頭)と少 (±)</p> <p>考察: 今後の気象条件と昨年の巡回調査結果から、越冬成虫量の予想発生量はやや少と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多く、気温は高くない予想 (-)</p> <p>2) ムギ生育予測システム(11月10日播種・農林61号・津、3月18日現在)によると、予想出穂期は4月15日頃と、平年に比べて2.6日程度遅い見込み (+)</p> <p>3) 一般圃場では、平年に比べて生育がやや遅い状況 (+)</p> <p>考察: コムギの生育状況から平年よりやや遅い時期の出穂および開花が予想されますが、今後の気象条件を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、気温は高くない予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(無防除圃場)では、昨年7月下旬の春葉発病率78.5%(平年56.9%)とやや多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、旧葉(昨年の春葉)における発病は確認できず(平年発病度0.2) (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と思われ、大きく増加する時期ではないことおよび気象要因を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、気温は高くない予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(無防除圃場、中晩柑、3月19日調査)では、越冬病斑の発病葉率18.1%(9年平均35.0%)、発病度3.0(9年平均7.9)といずれも少の傾向 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、温州みかん旧葉での発病葉率0.3%(平年0.2%)、発病度0.04(平年0.06)と平年並に少(±)、中晩柑類旧葉での発病葉率18.7%(平年7.5%)、発病度6.2(平年1.8)と多(+) (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は温州みかんで平年並に少、中晩柑類で平年並 (±)</p> <p>考察: 今回の巡回調査結果を重視して、予想発生量は温州みかんでは平年並、中晩柑類ではやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、気温は高くない予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(3月19日)では、寄生頭数は慣行防除圃場で0頭/葉(8年平均0.01頭/葉、ただし過去8年中4年は0頭/葉)と平年並に少の傾向、無防除圃場で0.69頭/葉(8年平均0.74頭/葉)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、寄生葉率11.4%(平年4.0%)、寄生頭数0.37頭/葉(平年0.17頭/葉)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は圃場によるばらつきがありますが、県予察圃および一般圃場の状況を重視して平年並と思われる、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ナシ	黒星病	-	平年並
	赤星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、昨年春の発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 昨年の一般圃場の発生状況を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、気温は高くない予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(3月中旬)では、寄生葉率6.0%(平年5.2%)とやや多、寄生頭数0.07頭/葉(平年0.61頭/葉)と少 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発生圃場率60.9%(平年27.4%)と多、寄生葉率2.2%(平年1.7%)とやや多、寄生頭数0.04頭/葉(平年0.05頭/葉)と平年並 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と思われる、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノホソガ	遅	-	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、気温は高くない予想 (発生時期+)</p> <p>2) 県予察圃における初飛来は、3月第4半旬(平年3月第3半旬)と遅 (発生時期+)</p> <p>考察: 県予察圃における飛来状況及び気象要因を考慮して、予想発生時期は遅と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	灰色かび病	-	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率11.2%(平年1.0%)と多、発病果率0.5%(平年0.4%)とやや多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多~多(概して多) (+)</p> <p>考察: 現状の発生量は多と思われ、引き続き予想発生量は多と考えます。</p>
	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率0%(8年平均0.4%)と平年並に少の傾向、発病果率0.13%(平年0.05%)とやや多(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少(±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と思われ、今後の増加を考慮しても、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、寄生株率18.2%(8年平均13.7%)とやや多の傾向、発生程度7.3(7年平均8.2)と平年並の傾向(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並~多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
キャベツ	菌核病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率3.0%(平年0.4%)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多(+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>



## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス 「イネばか苗病について」

本病はイネに発生する糸状菌病害です。近年、三重県内では本病が少発生ながら散見されており、多発すると2〜3割の減収になるとも言われています。今後の蔓延を防ぐために、本病の特徴を理解して防除対策をしましょう。

### ◆被害の様子◆

育苗期および本田期に発病し、本菌によって産生されたジベレリンの作用によって、葉身や葉鞘が徒長および黄化する特徴があります。

育苗期：健全苗に比べて、葉身や葉鞘ともに黄化、徒長します（図1）。特に移植直前の苗で顕著に現れます。

本田期：分けつ盛期までに葉鞘や節間が伸びて草丈が高くなり、全身が黄化します（図2）。発病株は穂ばらみ期頃には枯死しますが、葉鞘上には白色粉状の胞子が多量に付着しており、周囲への感染源になります（図3・矢印）。



図1 罹病苗（移植1〜5日前）の症状



図2 本田での徒長症状



図3 枯死株の症状

### ◆伝染経路◆

本病は種子伝染性病害です。枯死した株に形成された胞子（図3）が出穂期に周囲へ飛散し、開花したもみへ感染します。感染種もみは翌年の育苗期に第一伝染源となり、浸種や催芽、育苗箱中で周囲へ感染が拡大します（図4）。

### ◆防除のポイント◆

- 健全種子を使用しましょう。ばか苗病発生ほ場から自家採種した種もみは発生源となります。特に温湯消毒は薬剤消毒に比べて重症の種もみに対する防除効果が低いため、必ず健全種子を用いて手順や留意事項を厳守しましょう。
- 塩水選で重症の種もみを除去し、浸種を小分けして感染拡大を防ぎましょう。
- 本田での薬剤防除はできません。発病苗は除去するとともに、多発した育苗箱の移植は避けましょう。万が一、本田で発病した場合は、枯死する前に株ごと抜き取って焼却するよう努めてください。

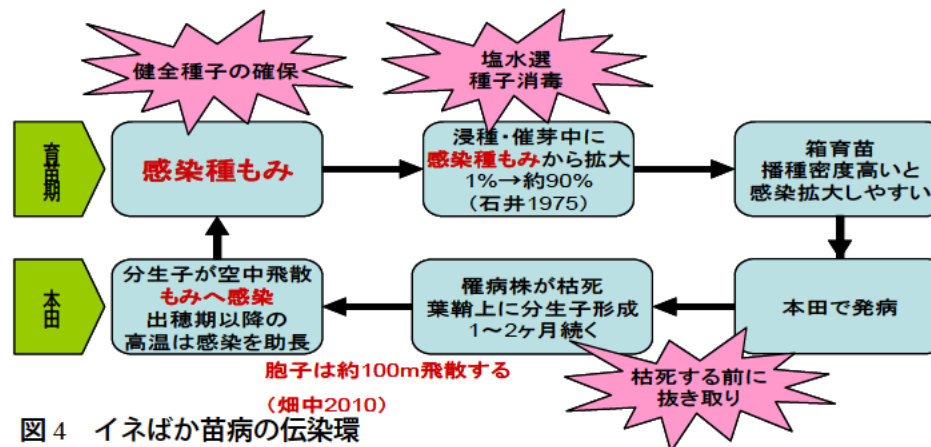


図4 イネばか苗病の伝染環

## 6. 気象のデータ

### 東海地方 1 か月予報 (平成 24 年 3 月 16 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、天気は数日の周期で変わり、高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多いでしょう。2 週目を中心に寒気の影響を受ける時期がある見込みです。

1 週目 3 月 17 日～ 23 日	天気は数日の周期で変わり、期間のはじめは気圧の谷や湿った気流の影響で雨が降るでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.4 日・4.2 日
2 週目 3 月 24 日～ 30 日	低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わりますが、大陸の冷涼な高気圧に覆われる日が多く、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。寒気の影響を受ける時期がある見込みです。	同 2.4 日・4.0 日
3～4 週目 3 月 31 日～ 4 月 13 日	低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 4.4 日・8.4 日

### 東海地方週間天気予報 (平成 24 年 3 月 21 日 10 時 35 分 名古屋地方気象台発表)

予報期間 3 月 22 日～3 月 28 日

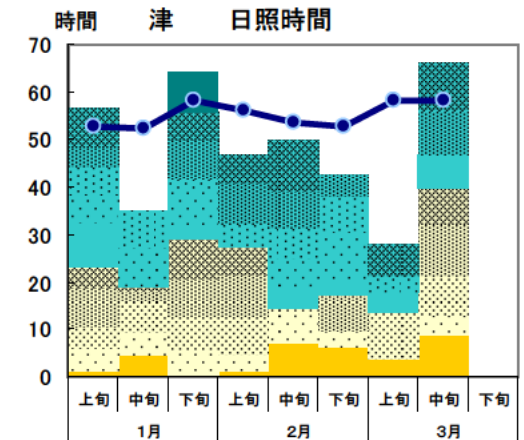
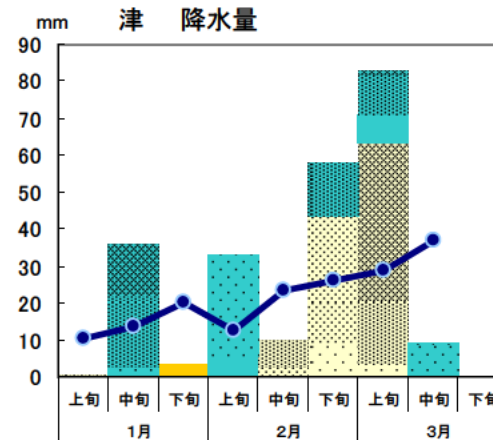
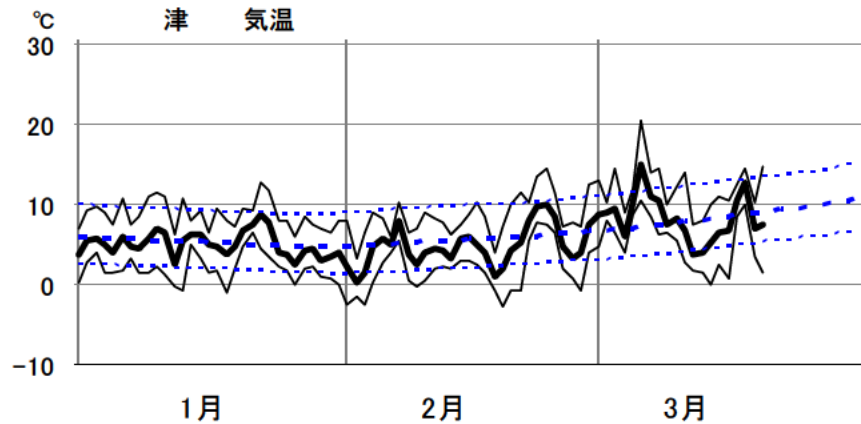
向こう一週間は、期間の前半は低気圧や寒気の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。岐阜県山間部では、雨や雪が降る見込みです。後半は高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。

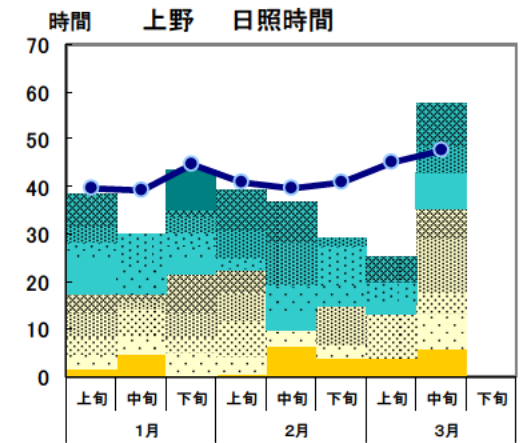
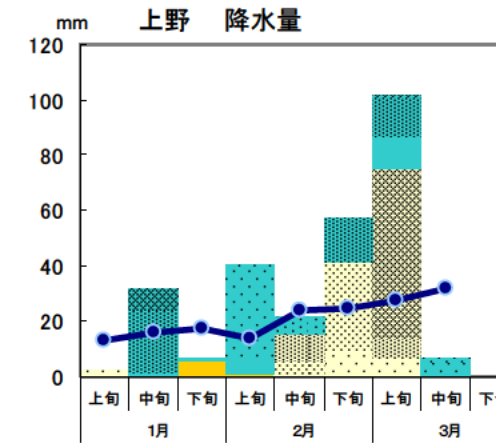
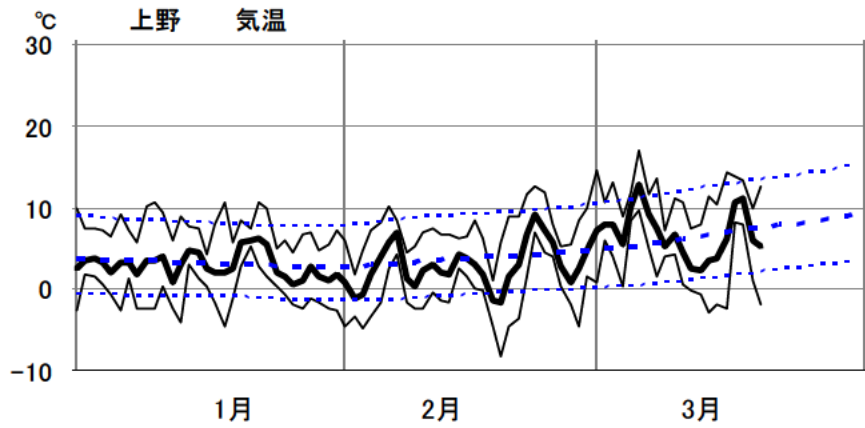
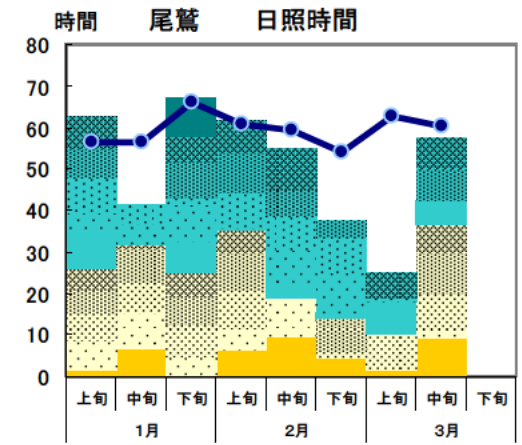
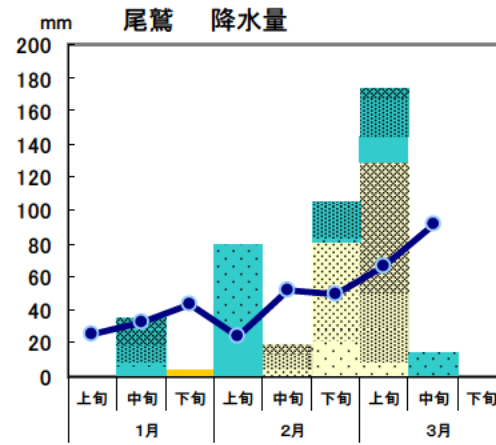
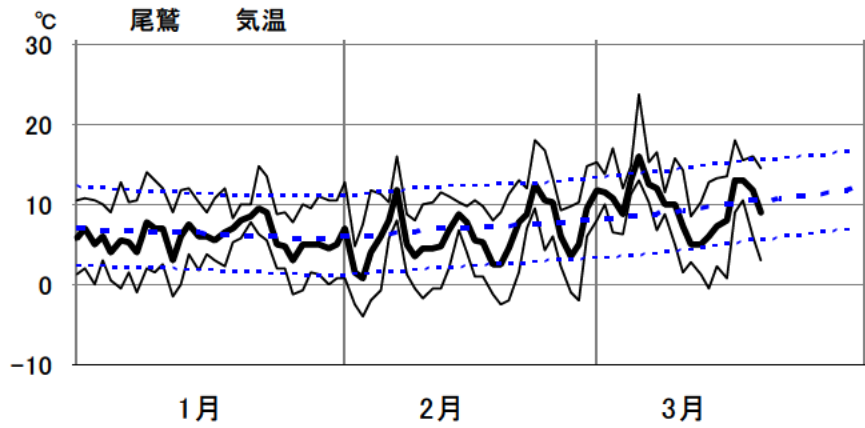
なお、期間のはじめは、発達する低気圧の影響で荒れた天気となるおそれがある見込みです。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より低い日が多く、期間の中頃にかなり低くなる所があるでしょう。

降水量は平年より多い見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etm/index.php> から作成、昨年 5 月 18 日に平年値が変更されました) (3 月 20 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- 平年平均
- 平年最高
- 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

## 7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

### 1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

### 2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月21日(済み) 第2回 5月26日(済み)

第3回 6月23日(済み) 第4回 7月21日(済み)

第5回 8月18日(済み) 第6回 10月20日(済み)

第7回 3月22日(今回)

### 3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h23yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h23yohotebiki_.pdf)

### 5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

### 7) 気象データの平年値

気象データの平年値が平成23年5月18日に更新され、1981年～2010年の30年間の平均値に変わりました。今回の変更により、全国的に平均気温が0.2～0.4程度高くなりました。